

7月21日オリンピックセンターにて
 ‘親ありき日本をこえる’ Coyell(コエール)スピーチイベントを開催！
 虐待などを理由に、多くは社会的養護のもとで育った若者たちが
 自らの経験をもとに、親を頼れない実情をスピーチします。
 子ども支援の活動家のプレゼンテーション、シンポジウムを交え
 会場の皆さまと共に「社会で子どもを育てる」ソーシャルアクションを広めていきます。

日本の社会制度や価値観は、実の親による子育てが当たり前であるという考えのもと、かたちづくられています。そうした社会の中で、親を頼れず、社会からも守られずにいる子どもたちがいます。親からの虐待により命を落としてしまう子どもたちは毎年約50人。児童相談所に保護されても家に帰される子どもたちは全体の約6割。社会的養護（行政手続きにより児童養護施設や里親家庭等で生活すること）に救われた約4万5千人の子どもたちですら、親ありきの社会の中で制度に悩まされたり、周囲と異なることで孤立を深めたりと生きづらさを感じています。

子どもは親を選ぶことができません。それなのに、親を頼れない故の不公平さや不条理さを運が悪かったと諦めるのはおかしい。諦めない大人たちが力を合わせ、誰でもできるソーシャルアクションから「親ありき社会」を変えていく、それがCoyell(コエール)スピーチイベントです。

親が頼れないとはどういう事なのか、何に困り、何に傷ついたのか、虐待や育児放棄などから親を頼ることができなかった若者たちが、自らの経験をもとにスピーチをします。まずは、社会に隠れている問題に彼らが光をあてます。

すでに子どもたちのためにアクションを起こしている活動家 ACHA プロジェクトの山本昌子さんがプレゼンテーションを行います。シンポジウムでは、『「なんとかする」子どもの貧困』の著者でもある社会活動家の湯浅誠さんをファシリテーターにお迎えし、里親支援や子ども食堂運営者の方々と『社会で子どもを育てるとは』をテーマにディスカッションをします。Coyell(コエール)スピーチイベントは、来場者の方々に向け、いくつかのソーシャルアクションの提案をするのも大きな特徴です。

日々報道される虐待、青山の児童相談所論争、そんなニュースを耳にして何かできないだろうか、もやもやとした気持ちになっている大人たちに、親を頼れない子どもたちの声を届け、社会を変えるアクションを提案する、それがCoyell(コエール)です。

ぜひイベント情報を貴メディアにてご掲載いただけますようお願いいたします。
 またスピーチを行う若者へ取材のご希望などございましたらお問い合わせ下さい。

6月16日、30日、7月14日にスピーチ練習を行います。

— Coyell スピーチイベント概要 —

【日時】2019年7月21日(日) 13:30~17:00

【場所】国立オリンピック記念青少年総合センター

【チケット代】 3,000円 ※児童福祉関係者/教育委員会職員/学校教職員/スクールソーシャルワーカーなど割引あり。

【お申し込み方法】 <https://coyell.b4s.jp/> よりお申し込み下さい。

【主催】認定NPO法人ブリッジフォースマイル